

# ため池の自然観察と塚ノ林池

相 地 満（東海市立船島小学校）

## 1 はじめに

11月8日(土)の新聞には豊田市の農業用ため池でウシモツゴの生息が確かめられている記事が掲載されていた。また、7月31日(木)に東海市富木島町で行なわれた、ため池の自然観察会ではオオキトシボの羽化する様子が観察されている。いくつかのため池は、今もなお、急速に滅びつつある里山の生き物をはぐくみ続けている。灌漑機能を失い、次々に死水化し、埋め立てられていくため池の存在を現代的な意義から捉えなおし、新しい活用をはかっていくことは、かつての里山の自然の中で恵みを受け、成長してきた近代都市に生活する者達の責務でもある。“人間は、自然を自分に役立てようとすればするほど、それに依存する。自然は、その内部に宿る法則に応じて、方向を示し、また支配されうるものなのだからである。”（ユンゲ「生活共同体としての村の池」1885年）ため池の自然について考えをめぐらす時、100年も前に語られたこの言葉の意味を今、あらためて思いおこす必要がある。

## 2 ため池の自然観察

### (1) 何を観察するのか

ア 池の生物の生態や形態を池という固有の環境との関係で捉える。この場合の池とは、水界のみならず、周辺の雑木林や集水域全体を含めて考える。

イ 人の営為を含めた自然の繋りを考える。

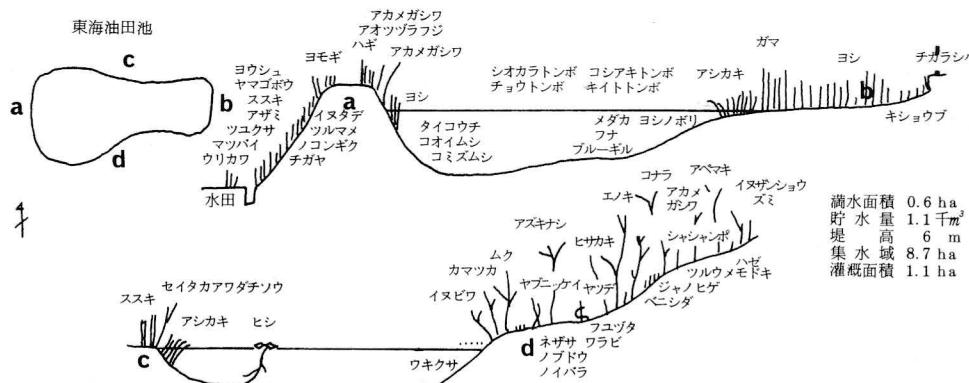
ウ ため池の環境が悪化していく、破壊されていくことにより、人と自然が敵対的な関係になっていることに気付く。

エ ため池の自然を知ることにより、これからの人と自然とのあり方を考える。

### (2) 個々の池の場合

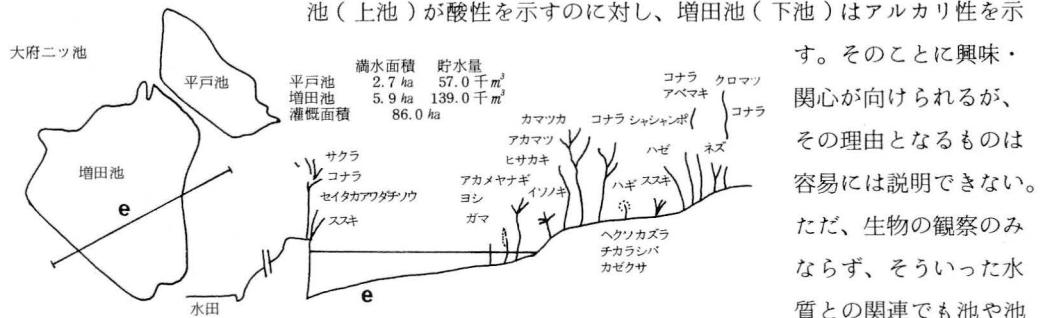
#### ア 東海市油田池の場合

7月30日(火)東海市油田池において、自然観察会をもった。参加者は子供30名、父兄30名であった。近くに公民館があり、そこで説明、標本や実物展示を行ない、図書の紹介も行なったため、現地での観察が大変有効に行なえた。また、まとめも深めることができた。観察地の近くにこういった施設があることは大変良いと思われる。参加者の感想も良かった。



## イ 大府市二ツ池の場合

9月28日(日)大府市二ツ池において、自然観察会をもった。参加者130名。この池は、平戸池(上池)が酸性を示すのに対し、増田池(下池)はアルカリ性を示



す。そのことに興味・関心が向けられるが、その理由となるものは容易には説明できない。ただ、生物の観察のみならず、そういうた水質との関連でも池や池

の生物を理解していくことが必要であるが、平易に説明したり思考させたりすることは、かなり難しいことである。

### 3 ため池の自然観察地としての塚ノ杣池の優位性

最近、自然観察会をもった2つの池の例を挙げたが、塚ノ杣池の場合は、これらの池よりはるかに都市近郊にあるため池の自然観察地としての優位性をもっている。その幾つかを挙げると、

- (1) 生物層の豊かさ — 豊かな2次林にかこまれている。そのため、そこで観察される生物相の幅も広い。食虫植物、雑木林、水草、昆虫、水生昆虫、きのこ、野鳥など観察される生物の種類は他の池に比較すると格段の開きがある。
- (2) 安全性 — 水際に立っての観察が可能であり、がけや、土砂崩れの心配もない。
- (3) 施設の活用 — 近くに社会教育センターがあり、そこで標本展示や実物の観察が可能である。観察の事前・事後の活動に大変便利である。ため池の自然観察では、そういうた活動がとりわけ必要である。池の生物の観察は、池の畔に立つだけでは出来ないことが多いからである。また、池の歴史や、池がおかれている現状などを説明したりするためにも、落ち着いた場が必要である。図書や資料等の紹介にも良い。

### 4 おわりに — 猪高町の自主的グループによる自然観察会の紹介をかねて

猪高町には、塚ノ杣池を含めた猪高緑地をフィールドにする自主的な自然観察グループがあり、隨時、自然観察会を行なっている。都市周辺では、自然が豊かなこの猪高緑地と塚ノ杣池の自然観察を継続して行なっていくことは、大変、有意義なことである。

だが、この塚ノ杣池も、このまま将来にわたり、自然の比較的豊かな池として在り続けていくとはとうてい考えられない。この数年の間でさえ、状態の悪化は著しい。農業用水としての池の役割が薄れるにつれ、池の自浄作用は低下していくのかも知れないが、釣人による池の荒廃には甚しいものがある。ブラックバスやブルーギルの繁殖、かつては優位を占めていたガガブタやヒシの後退傾向。これらの現象が何に起因としているのかは良くわからないが、この池を守り続けていくためには、ゴミ掃除や啓蒙活動をするボランティアが必要となっている。また一度杣抜きをして、外来魚や水草の様子を調べたり、池の清掃をしてみてはどうであろうか。隨時行なわれた、そういう人の手による活動もまた、かつてのため池の自然を作り上げていたはずである。尚、本調査研究の一部は、トヨタ財団身近な環境をみつめよう第4回研究コンクールからの助成を受けた。